

平成30年8月20日（月）

愛知県政策企画局国際課国際戦略グループ

担当 浅田、齋藤 内線 2256、2399

ダイヤル 052-954-6130

愛知県振興部アジア競技大会推進課企画・調整グループ

担当 山肥田、岡本 内線 2854、2845

ダイヤル 052-954-6845

愛知県振興部航空対策課利用促進グループ

担当 上原、大久保 内線 2281、2283

ダイヤル 052-954-6133

知事の東南アジア渡航中の行事結果について

8月19日、知事は第18回アジア競技大会（2018/ジャカルタ・パレンバン）の競技会場等を視察しました。同日夜には、石井駐インドネシア日本国大使主催夕食会に出席し、関係者との意見交換等を行いました。

8月20日、知事はインドネシアにおいて、ブディ運輸大臣と面談し、ビジネス・観光分野のさらなる交流促進に不可欠な「中部－ジャカルタ線」の早期就航を要請しました。また、カッタ副大統領と面談し、進出企業へのさらなる支援をお願いするとともに、本県における領事館設置と本県とインドネシアの直行便の早期就航を要請しました。

1 アジア競技大会競技会場視察（担当課：アジア競技大会推進課）

(1) 日時

8月19日（日）14:00～16:00（日本時間 16:00～18:00）

(2) 場所

ゲロラ・ブン・カルノ・スタジアム（GBK）周辺

(3) 内容

知事は、第20回アジア競技大会愛知・名古屋の参考とするため、ジャカルタ大会の競技会場等を訪れ、施設改修や仮設整備について視察した。

アーチェリー競技会場



バドミントン競技会場



水泳競技会場



メインプレスセンター



2 石井駐インドネシア日本国大使主催夕食会（担当課：アジア競技大会推進課）

(1) 日時

8月19日（日）18:30～20:20 （日本時間 20:30～22:20）

(2) 場所

駐インドネシア日本国大使公邸

(3) 出席者

（大使館側：主催者）

石井正文 駐インドネシア日本国大使 等

（愛知県側）

大村知事、河村名古屋市長、名古屋商工会議所 山本会頭

（その他参加者）

遠藤利明衆議院議員（東京オリンピック・パラリンピック組織委員会副会長）

竹田恆和 日本オリンピック委員会会長

山下泰裕 日本代表選手団団長

鈴木大地 スポーツ庁長官

(4) 内容

知事は、石井駐インドネシア日本国大使が主催する夕食会に、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会（東京2020）遠藤副会長や日本オリンピック委員会（JOC）竹田会長らとともに出席した。石井大使は冒頭の挨拶の中で、「2018年ジャカルタアジア競技大会の成功とともに、2026年愛知・名古屋大会の成功も大いに期待している」と発言された。また、竹田 JOC 会長及び山下日本代表選手団団長から、「2018年ジャカルタ大会での選手の活躍を2020年の東京オリンピック・パラリンピック、さらには2026年アジア競技大会愛知・名古屋につなげていきたい」との発言があった。その後、知事は、大使が招待したスポーツ界、政界、経済界などの方々に対して、愛知・名古屋大会をPRし、出席された方々からは、愛知・名古屋大会へのエールを受けた。

山下日本選手団団長による乾杯



石井駐インドネシア大使と



山下日本選手団団長と



歓談の様子（遠藤東京 2020 副会長）



歓談の様子（鈴木スポーツ庁長官と）



山本名古屋商工会議所会頭と



夕食会後の集合写真



3 ブディ運輸大臣面談（担当課：航空対策課）

(1) 日時

8月20日（月）8:00～8:40（日本時間 10:00～10:40）

(2) 場所

運輸省

(3) 面談者

ブディ・カルヤ・スマディ運輸大臣

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋市 松雄企画調整監、名古屋商工会議所 山本会頭、
（一社）中部経済連合会 栗原常務理事、中部国際空港(株) 友添社長、
ジェトロ名古屋 梶田所長

(5) 内容

大村知事を始めとして、地元経済団体や中部国際空港会社から、愛知県からインドネシアへは自動車産業始め多くの企業が進出しており、ビジネス・観光分野のさらなる交流促進のためには、中部－ジャカルタを結ぶ直行便が不可欠であることを訴え、早期就航を要請した。

これに対し、ブディ運輸大臣からは、愛知県とインドネシアの交流が更に進展することが望ましいこと、そのために中部－ジャカルタ間の直行便の開設に対し、政府として直接的・間接的に支援していきたいこと、さらに、ガルーダ・インドネシア航空に対して、直行便の開設のため、どのような方法があるのかあらゆる可能性を検討するよう伝えていることなどの回答があった。

ブディ運輸大臣との面談の様子



ブディ運輸大臣への記念品の贈呈



面談参加者全員による記念撮影



4 カッラ副大統領面談（担当課：国際課）

(1) 日時

8月20日（月）10:00～10:35（日本時間 12:00～12:35）

(2) 場所

副大統領府

(3) 面談者

ユスフ・カッラ副大統領

(4) 愛知県側出席者

大村知事、名古屋商工会議所 山本会頭、（一社）中部経済連合会 栗原常務理事、中部国際空港(株) 友添社長、在インドネシア日本国大使館 石井大使

(5) 内容

大村知事は、「3年前及び昨年に引き続いて、再びお目にかかることができ大変光栄に思う。2018年アジア競技大会の開幕をお喜び申し上げます。18日の開会式は素晴らしかった。この大会には、日本からも1,000名を超える選手団が来ており、両国選手の大活躍を期待している。愛知は2026年アジア競技大会の開催地である。今回の大会を大いに参考にさせていただき、愛知での大会を成功させたい。」と述べた。また、「愛知からインドネシアへは約250社が進出している。今後もさらなる進出が見込まれるなど、経済面においても愛知県にとって重要な国である。昨年2月に経済担当調整大臣府との間で「経済交流に関する覚書」を結び、今年1月には、愛知県企業による投資を促進し、企業を支援するためサポートデスクをジャカルタに設置した。副大統領には、ジャカルタの東部に新たな日本人学校が開設されるが、サポートしてもらっており、感謝する。今後も、愛知県企業の進出が見込まれるので、道路・港湾インフラの充実、税制や貿易手続きの簡素化をはじめとした投資環境の改善など、インドネシア政府の支援をお願いしたい。」と述べた。さらに、「愛知県には全国最多の約6,500人以上のインドネシアの方がお住まいであり、ここ3年で2倍以上増加している。貴国と本県との人的交流・経済交流が一層促進されるよう、ぜひ愛知県への貴国領事館設置をお願いしたい。」と述べ、外国公館の誘致を要望するレターを手渡した。また、「本日午後にガルーダ航空を訪問するが、愛知とジャカルタの直行便開設についてもご支援を賜りたい。あわせて、愛知県は2023年の技能五輪国際大会の開催を目指しており、この大会の運営組織であるWSI（ワールドスキルズインターナショナル）のメンバーである貴国にご支援をお願いしたい。」と述べた。

カッラ副大統領からは、「知事には何度もお越しいただき感謝する。こうした交流は日本・愛知県の関係強化にとって大変重要である。過去数十年で、2回の経済危機があったが、必ず変わらずに助けてくれる日本には感謝している。両国が長期的な視点で良好な関係を築いていくため、貿易だけでなく、投資、さらには人と人との関係をさらに深めていきたい。多くのインドネシア人が日本で働き、学んでおり、これからも増えていこう。介護士や看護師等として日本で働く人たちから「日本は働きやすい国」と聞いており、困ったとか、苦労したといった話は聞いたことがない。」と発言があった。また、「領事館設置は喜んで外務省に検討するよう働きかける。ガルーダ便の名古屋直行便は観光交流の促進にも重要であり、早期就航の要望はその通りと思う。私からも話をしたい。インドネシアには大自然を始め、観光客を受け入れる環境は整っている。日本企業の進出が多い西ジャワ地域には、新たな空港もできてビジネス環境は整いつつある。日本からの支援で、パティンバンには港を造っており、スラバヤとジャカルタ間には高速鉄道もできる。こうした支援は、日本との友好の象徴だ。日本人学校も日本からの企業が安心してビジネスを行うには重要と考えている。」と述べられた。

カッタ副大統領との面談の様子



今後の協力について固い握手を交わした



カッタ副大統領に外国公館誘致レターを手渡した



終了後は、現地マスコミから取材を受けた

